

ふるさと歴史散歩

〔第162回〕松崎八幡宮址

その四



関ヶ原合戦後に安藝・備後2か国の領主として入部した福島正則は、領内殆ど全ての神社の社領や神田を没収したので、神社は年間行事として行う祭祀の費用はおろか修理費用もなく、神社にとっては、言わば氷河期（時代）を迎えた。特に、近世（江戸時代）の安藝国の神社の屋根は茅葺きが多く、備後国は柿葺きが多く、20〜30年ごとに葺き替える必要とした。現在、柿葺きや桧皮葺き屋根は、国宝や県指定の重要文化財にしか残っていない。

日本固有のもので耐久力や保存性に優れ、その源流は古代の飛鳥時代にまで遡る事ができ、宮殿や神社などの上級建物の屋根を葺いた日本人の感性が生み出した伝統文化の一つである。そのような素晴らしい建築物が府中町に存在していることを誇りにしたいものだ。そもそも町の文化財は現在生活している人々だけが享受するものでなく、未来の子供たちのためにも正しい名称や破損することなく大切に伝えて行かねばならないものである。

世界文化遺産に指定された厳島神社や、府中町では多家神社境内にある県重要文化財の宝蔵の屋根が桧皮葺きである。昨年7月から始まった和歌山県の専門業者による葺き替え工事が12月に終わり、真新しい桧皮1枚ずつを竹くぎで止めて仕上げた屋根の四隅の照り（左右の反り）の曲線がとても美しい。この技法は

「広島県の神社建築」によれば、広島県の神社本殿の屋根が瓦葺きとなったのは早くて明治初年、遅いもので戦後であり、銅板葺きは大正時代に始まって戦後から圧倒的に増えていったという。耐久性を考えれば無理もないが、桧皮葺き神社には格別の荘厳さがある。

府中町文化財保護審議会会長
横田 禎昭



多家神社 宝蔵(県重要文化財)

消費生活相談

〈仮想通貨の購入トラブルに注意〉

相談内容



会社関係の知人から、10万円分の仮想通貨を購入するよう勧められた。契約すると、グループに加入し、グループ単位で、仮想通貨を購入したり、分け合ったりできると説明されたが、内容について全く理解できなかった。知人からの勧誘なので、断りにくい。どうしたら良いか。

(50代 女性)

アドバイス



まず、相談者には仮想通貨は、法定通貨と異なり国家による価値の保証がないこと、価格変動のリスクがあり、必ず儲かることはありえないことなどを説明しました。そして、契約内容を理解できないのであれば、申し込みは勧められないとの助言をしました。

仮想通貨については、知人からの勧誘やセミナーでの

勧誘から、トラブルになった事例が寄せられています。また、4月から改正資金決済法などの施行により、新制度が始まりました。

◆新制度の主な内容

- ①登録制の導入（事業者は、仮想通貨交換業を行うには、金融庁・財務局の登録を受ける必要がある）
 - ②適切な情報提供（事業者には、利用者に対し、取り扱う仮想通貨の仕組みや手数料などを説明することが義務付けられた）
- 困ったときは、消費生活相談窓口にご相談ください。

消費生活相談員による相談窓口

町民生活課(役場4階)
☎286-3128
月～金曜日
午前9時～正午
午後1時～4時

